

平成19年度

調査研究助成事業報告書

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

「地域との連携による学校づくり」

地域ボランティアとの協働による
障害児・者支援事業の構築

目次

1．はじめに	- - - P 3
2．神奈川県立高津養護学校 PTA 活動の概要	- - - P 3
3．従来の取り組みと課題 夏休みのPTAプール開放について 夏休み物作り体験「PTAサマーワークショップ」と一日バスハイク 課題	- - - P 4
4．地域の高校生が企画実践する障害児・者支援イベント 「わくわくスタジアム in たかつ」について 目的 想定した日程と事業の流れ 活動の内容 取り組みの成果と課題	- - - P 6
5．地域防災ボランティア養成講座の実施 はじめに 障害児・者、高齢者等要援護者支援防災シミュレーション訓練の日程と概要	- - - P14
6．まとめと課題	- - - P18

1. はじめに

養護学校はその通学地域が比較的大きいため、学校周辺地域との関係は希薄になりがちである。川崎・横浜両市を学区とする本校はともすれば大都市特有の地域関係に埋没しかねない状況にあった。

本校PTAは数年前より、夏休みの余暇支援活動に積極的にボランティアを活用してきたが、周辺地域の学校理解は十分とはいえない。そこで、PTAと学校との協力の下

地域の高校生が企画実践する障害児・者支援イベント

地域防災ボランティア養成講座の実施

等を計画・実施し、地域自治体、地域教育関係者、社会福祉協議会等学校周辺地域の人的資源に、より積極的に関与し、地域住民の学校理解と、ひいては障害の理解を促進することを目的とした。

また、本研究はPTAを中心に学校、地域自治会、教育委員会、社会福祉協議会、ボランティア代表者、その他による「研究運営委員会（仮称）」を設立し、実施運営を図ってきた。

2. 神奈川県立高津養護学校 PTA 活動の概要

神奈川県は人口890万、特別支援学校は46校、そのうち知的障害がある子どもたちが学ぶ学校は30校です。高津養護学校がある川崎市高津区は、多摩川で東京都と接する川崎市北部にあり、横浜市北部とも隣接している東急田園都市線沿線にある都市化された地域です。

高津養護学校は昭和52年（1977年）創立され、本年10月に創立30周年大運動会を行います。川崎・横浜の両市から小学部37名、中学部43名、高等部76名、合計157名の児童・生徒がかよう知的障害養護学校です。数年前までは神奈川県内各養護学校と同様、児童・生徒の増加が続き、200名を超える「大規模校」でしたが、2年前、近隣に神奈川県立麻生養護学校が開校し66名の児童・生徒が転校しました。

高津養護学校の教育目標として、基本的生活習慣の確立と生活に必要な基礎的学習能力の充実。健康で明るい心と豊かな人格の育成。自律と強調の心を育て、社会参加に向けた意欲を育てる。の3点がうたわれています。

神奈川県立高津養護学校 PTA は会員数153(世帯数)、教職員会員103、合計256人の会員で構成されます。運営委員会が会長・校長以下18名、会計監査3名、その他、学部学年・広報・進路対策・バザー・余暇活動の5常置委員会と推薦委員会が「父母と教職員の協力による児童生徒のしあわせをはかること」を目的に活動しています。

3. 従来の取り組みと課題

夏休みのPTAプール開放について

< 取り組みの経緯 >

高津養護学校では学校5日制開始以降、児童生徒の休日や夏休みなどの長期休業中の余暇活動が、長い間課題とされてきました。児童生徒の居住地である横浜市・川崎市は独自の障害児余暇支援事業を行ってはいますが、費用や利用可能日数の点で利用しやすさに限界があります。とくに、夏休みは40日と長期間であり、有意義にその期間を過ごすには困難な点が多いと思います。思春期を迎える小学部高学年から高等部の児童生徒たちは親子共々、楽しいはずの夏休みが「悩み多き夏休み」になってしまうこともありました。

高津養護学校では以前から教員主導による夏休みプール開放が行われ、1週間程度の利用が可能ではありましたが、近隣の公営プールが次々に閉鎖される中、学校プール利用の拡大を希望する声が大きくなってきました。しかし、教員の力にたよる状況では、利用日数の拡大は困難でした。

そこで、地域の大学をまわり、大学生ボランティアを募ることによって、PTA主導によるプール開放が可能となってきました。当時は、教職志望の学生に「介護体験」が課せられた時でもあり、その学生たちに呼びかけることにより、多くの学生がプールボランティアとして子どもの介助や安全監視にあたっていただきました。同時に、学校のHPで呼びかけたり、地域の社会福祉協議会、近隣の高等学校等にもボランティア要請のチラシを配布し、PTAとボランティアによるプール開放が実践されてきました。

< 取り組みの特徴 >

高津養護学校PTAプール開放の特徴は、「いつでも利用可能」ということです。夏季休業中の水曜を除く平日午後は、夏休み前の名簿登録さえ済ませておけば、思い立ったその日に利用が可能となっています。予約は必要ありません。その日の子どもの状況や気温と相談しながら、「今日は暑くなりそうだから、学校のプールへ行きましょう」ということが可能になっています。また、高等部の大きな子と小学部の小さな子の同時利用は事故の原因にもなりかねないため、火曜の午前中は小学部のみ利用ということにしました。

このような取り組みにより、夏休み期間中のPTAプール開放利用は、日数にして40日中18日から20日程度、子どもの利用数のがのべで250から300名。ボランティアが約100名となっています。もちろん、PTA主催ですので保護者や教職員も参加します。

夏休み物作り体験「PTAサマーワークショップ」と一日バスハイク

< 取り組みの経緯 >

前述のPTAプール開放を始めた時点から「プールが苦手な子はどうするの?」という疑問がありました。そこで、プール開放のない水曜日の午前中に数回のコンサートやリトミックを開催してきました。しかし、夏休みの暑い一日を冷房のない体育館や校舎で活動するのは問題があります。そこで、これらを集約し、一日は涼しい食堂を利用した物作りワークショップ、もう一日、スクールバスを利用してバスハイクを行っています。

「サマーワークショップ」は夏休み「物作り体験」として、うちわ製作やストーンアート、風鈴作りなど分かりやすい工作に取り組んでいます。工作のあとは冷たい麦茶を飲みながらアカペラコンサートを楽しんでいます。

「バスハイク」は以前はクラス単位の活動として、様々な取り組みが行われていましたが、クラスの状態による差が大きく、「バスハイク」として統一しました。今年度は「八景島シーパラダイス」で夏の一日を楽しみました。

< 取り組みの特徴 >

「PTAサマーワークショップ」にも高校生や大学生を主体とするボランティアが多数参加しています。とくに、早稲田大学学生によるアカペラコンサートは本格的な物で、そのハーモニーのすばらしさに児童生徒のみならず、保護者も聴き入っています。

また、このイベントには近隣の小学生も20名ほど「物作り体験」として参加しています。本校の児童生徒と小学生たちとの貴重な交流の場ともなっています。

教職員も準備段階から参加してくださいますが、余暇委員会の保護者と統一した手作りTシャツを着用して保護者と一体となった活動となっています。

課題

以上のような様々な取り組みは、多くのボランティアの方々の協力により成立してきました。ボランティア活動に参加した学生の中には、「障害児教育を人生の道に！」と現在、高津養護学校の教員として勤めている者もいます。学生にとっては貴重な体験の場となっているようです。しかし、以前のように、大学にチラシを配れば学生ボランティアが集まってくると言うことはなくなってきました。学生ボランティアの数が大きく落ち込んでいるのです。一方で、最近、シニアボランティアの方が増えてきました。シニアボランティアの方は地元の方が多く、毎年継続的に来ていただけるので、本当に助かっています。

PTA や学校としても「障害児支援ボランティア養成事業」ということで、近隣の高校や大学、社会福祉協議会などに積極的に呼びかけていますが、単なる呼びかけから「養成事業」への転換を目指して、「高校生による障害児支援イベント“わくわくスタジアムin たかつ”」を高校生ボランティアとともに企画し、高校生・大学生のボランティア育成に努めています。

4．地域の高校生が企画実践する障害児・者支援イベント「わくわくスタジアム in たかつ」について

目的

地域の高校生と障害児・者の協働により、障害児者向けイベントの企画・準備・実践をとおして、障害児・者の余暇活動を支援するとともに、高校生自身のボランティア精神の涵養と社会参加の機会を提供する。

想定した日程と事業の流れ

日程：07年8月19日（日）：9時から15時

場所：高津市民館大会議室（約300人収容可）及び作業室（同50人）

内容：地域障害児者有志（高津市民館日曜ふれあい広場参加者及び希望者）、大学生、高校生のボランティアに企画・運営を依頼。PTAと学校は広報やサポートをおこなう。

学齢期児童生徒対象定員制15～30名程度（企画内容により変更）とする。

手順：企画ボラ募集4～6名程度（3・4月）

企画案検討（4・5月）：<企画例>紅白対抗ミニミニ運動会（体を使ったゲーム大会：ふうせんバレー、ふうせんリレー、人間カルタ、巨大福笑い、空き缶タワーなど室内ゲーム）ミニミニコンサートやミニミニ映画会など

障害者サポートボラ募集（5月：出来れば参加障害児者と同一人数）

参加者募集（6月）

サポートボラ研修・サポートボラと参加者顔合わせ（8月5日）

実施、反省集約、次年度に向けた総括（8月下旬）

< 高校生ボランティア募集用チラシ >

神奈川県立高津養護学校

ボランティアのぼんてあ

障害者支援イベントを企画・準備・実践しませんか！

夏休みの一日を有意義に過ごしませんか。地域の養護学校や小中学校の支援級には様々なハンディがある子が通っています。長い夏休みを地域の仲間と一緒に「すごせたらなあ！すごしたいな！」と思っている子もたくさんいます。そんな願いをちょっとサポート。楽しい一日をあなたの手で創り楽しい笑顔の一日をプレゼントしましょう。地域障害児・者との協働によるイベントの企画や準備を障害者支援の方法を学びながら自分自身をスキルアップしていきましょう。



高津養護学校では今夏8月19日(日)、溝のロノクティの高津市民館と協力して障害児・者支援イベントを予定しています。このイベントを企画段階から支えてくれる大学生・高校生の皆さんを募集しています。



ボランティアをするときは、「無理せず、楽しく」行うということです。ボランティアを始めたからには、いつまでも続けなければいけないと考えるかもしれませんが、一回だけの参加でもよいのです。一回だけでも、相手の方にも喜んでもらえる活動もあります。「ボランティアするぞ」と力まずに、自分ができる範囲でかかわってくださいます。また、日常生活では、仕事や学業もあり、家族や友達と過ごす時間も必要です。ですから、短い時間での活動や、家族や友達と一緒に参加できる週末の活動というのはいかがでしょうか。「無理しないで」ということが大切です。

☆ちよつとボラ

あなたのプレゼンスキルをアップ！チャレンジボランティア

チャレンジしてみよう！ ボランティア活動



どんな小さなことでもいいから、社会に貢献することにチャレンジしてみようという思いが「かながわ高校生チャレンジボランティア」という言葉には込められています。まず、自分ができる、ちょっとした活動から始めることが大切です。高津養護学校では、これから社会で活躍する大学生や高校生の方々に様々なボランティアプランを提案します。

申し込み・問い合わせ
高津養護学校地域支援担当
Tel 044-865-0477 Fax 044-877-2626
E-mail syu-imaizumi@pen-kanagawa.ed.jp
HP <http://www.takatsu-sh.pen-kanagawa.ed.jp/>
〒 213-0035 川崎市高津区向丘 16
(田園都市線梶が谷駅徒歩 10 分)



協力：高津市民館「日曜ふれあい広場」

'07 わくわくスタジアムintかつ

～みんなで遊ぼう～高校生による「夏休み」イベント！

参加者大募集！



日時：8月19日(日) 10:00～14:00

場所：高津市民館(溝のロノクティ11階)

内容：室内ゲーム・チャレンジコーナー・
科学の部屋・ミニミニコンサート・レッツ

ダンスなどを高校生やボランティアと楽しみます。

対象：養護学校や支援級に通う10歳から15歳までの方30組

(知的な障害がある方で、保護者がそれに代わる方の同伴が原則です)

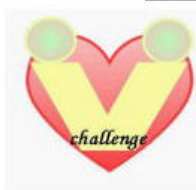
その他：8月5日(日) 13:00～高津市民館での
ボランティアとの顔合わせに必ず参加してください。

申込：高津養護学校地域支援係まで問い合わせください。

7月20日(金)まで。(応募多数の場合主催者による抽選となります)



チャレンジサポートボランティア同時募集！



チャレンジしてみよう！ ボランティア活動

どんな小さなことでもいいから、社会に貢献することにチャレンジしてみようという思いが「かながわ高校生チャレンジボランティア」という言葉には込められています。まず、自分ができる、ちょっとした活動から始めることが大切です。高津養護学校では、これから社会で活躍する大学生や高校生の方々に様々なボランティアプランを提案します。



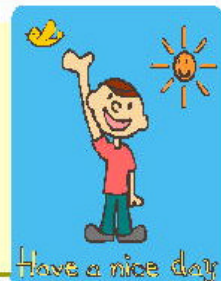
申し込み・問い合わせ
高津養護学校地域支援担当
森・今泉

Tel. 044-865-0477 Fax 044-877-2626

HP <http://www.takatsu-sh.pen.kanagawa.ed.jp/>

〒 213-0035 川崎市高津区向ヶ丘 16

(田園都市線梶が谷駅徒歩 10分)



協力：高津市民館「日曜ふれあい広場」

活動の内容

日程 ボランティア研修会 : 2007(平成 19)年 8月 5日 (日) 9時 45分から

: 本番期日 : 2007(平成 19)年 8月 19日 (日) 8時 45分から

場所 : 高津市民館 (溝口 ノクティ12階)

ボランティア研修会

<はじめに>

本日は、「わくわくスタジアム in たかつ」にボランティアとしてご参加していただき、ほんとうにありがとうございます。高津養護学校は知的な障がいのある子どもたちが学ぶ学校です。今回の活動がボランティアの皆さまと障がいがある子どもたちのステキな出会いになればとおもいます。

<顔合わせ会について>

障がいがある子どもたちとはじめて出会う場です。どんな子といっしょに活動するのか、ちょっと不安があるかもしれませんが、障がいのある子、その家族の皆さまもきっとドキドキしています。「大丈夫、きっとなかよくなれる!」と思って会ってください。その思いはきっと伝わります。

一緒に活動する方の個人情報プライバシーの部分もあります。取り扱いには充分注意してください。

ご家族からお子さんとの接し方をなるべく詳しく聞いてください。特に不安定になったとき、どのように対応すれば落ち着くのか詳しく聞いてください。

当日の昼食は子どもと一緒にとります。どこで、どんなものを食べるか?については「顔合わせ」のときに保護者とよく話し合ってください。

顔合わせ会終了後、皆様のご意見や感想をお聞かせ下さい。不安や心配、気になったこと、何でもかまいません。当日の本番に向け、率直なご意見をお聞かせください。

< 「わくわくスタジアム in たかつ」当日 19日の本番について >

集合場所、時間は高津市民館 (ノクティ12階)大会議室前に8時 45分です。遅れないようにしてください。

活動中は、子どものすばやい動きに対応できるよう動きやすい服装、スニーカー、カバンは両手が空くようにデイベックのようなものがよいでしょう。キラキラする装身具などが気になる子どももいます。当日ははずしておくとい良いでしょう。貴重品は自己管理をお願いします。

子どもと一緒にのときはトイレや水分補給がむずかしい場合があります。事前にすませておくとい良いでしょう。

活動中、何かあったらすぐにまわりにいる大人に知らせてください。

活動終了後、保護者とその日の様子を話し合ってください。子どもの様子やイベントへの参加の様子、トイレや食事のことなど、普段とどの様に違ったか保護者に伝えてください。

活動終了後、活動の報告会を開催します。皆様のご感想・ご意見をお聞かせください。今後の活動の参考としていただきます。

報告会終了は午後 3時を予定しています。

はじめて障がいのある子・人と接するにあたって

障がいのある子・人と接するとき、かわいそうな人という意識で接することは相手や保護者のお気持ちを傷つけることもあります。障がいがあるからわからない、できないと考えるのではなく、ひとりの人として接していく姿勢が大切です。

障がいがある子・人が自分で選んだり、決めたりできるように情報を提供し、援助するという立場で接してください。強制や指導ではありません。その気持ちを尊重し、代わりにやってしまうのではなく、その子・人のペースに合わせて待つことを心がけましょう。

障がいがある子・人にとって「自分を受け止めてもらえた」という気持ちはとても大きな喜びになります。障がいがある子・人の話す言葉だけでなく、表情、声のトーン、身振り、手振りなどいろいろな伝え方でその思いを伝えようとする気持ちを感じとってください。障がいのある子・人の話を前向きに聞く、向き合うという姿勢と雰囲気大切にしてください。

何かよいことをしてあげる、よいことをしてあげていると考えるのではなく、一緒に楽しむという気持ちを大切にしてください。

話をするときはむずかしい言葉は使わず、簡単に、短く、はっきりと、ゆっくり、具体的にわかりやすいことばで声をかけてください。伝えたいことが相手に伝わっているのか、いないのかよくわからないときは、話しかけをくりかえして、相手の表情や態度、行動をよく見ましょう。

障がいのある子・人は「次に何をやるか」、「どこへ行くのか」わからないと不安になります。次の行動に見通しがもてるよう「次はどこどこで、なになにをやりまます」と写真や絵、ジェスチャーをまじえながら具体的に説明し、不安をとりのぞいてください。

障がいのある子・人の中には大きな音や騒音、子どもの泣き声、金属音のような高い音など特定の音が苦手な子・人がいます。また、皮膚の刺激に敏感であったり、気温の変化（汗をかけずに体温が上昇してしまう）に敏感な子・人もいます。そういった場合には、静かな場所に移動する、靴下を脱がしたり、着ている上着などを一枚脱がせ、必要なら冷たいタオルで身体を拭くなどが必要になることがあります。

わからないこと、不安なことは、必ずベテランのボランティアや教員に聞いてください。

わくわくスタジアム in たかつ 参加者・保護者の皆さま

< 顔合わせ会について >

ボランティアとはじめて顔合わせする日です。どんな人が担当か、不安な気持ちもおありかと思いますが、ボランティアする人もきっと不安な気持ちだと思います。

今回のイベントは夏休みの一日を子どもたちに「楽しくすごしましょう」と呼びかけるとともに、若い中学生や高校生・大学生に障がいのある子・人のサポーターとしての経験の機会・場を提供し、今後の学びの場にかすきかけとなればという意味もあります。

障がいのある子・人のサポートボランティア育成の一端を皆さまに担っていただきたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

顔合わせ会では子どもの様子をなるべく詳しくお伝えください。特に不安になったときの解消法は詳しくお伝えください。子どものお名前や性別など簡単なことはボランティアに伝えてあります

が、改めて言葉で伝えていただくことで、より気持ちが通じると思います。

当日の昼食は子どもとボランティア・保護者が一緒にとります。どこで、どんなものを食べるか？については「顔合わせ」のときにボランティアとよく話し合ってください。

短い時間ですが、子どもとボランティアがゲームをして遊びます。お互いの関係作りをしていただくための時間です。この時間は保護者と主催者がお話をさせていただく時間にしたいと思いません。

この日に参加できないボランティアがあられます。顔合わせの時は代わって主催者が対応し、その様子は当日までにしっかりとボランティアに伝えますのでご了承ください。

< わくわくスタジアムin たかつ 当日 19日の本番について >

当日は高津市民館（ノクティ12階）大会議室前に受付があります。

受付は9時45分から開始します。10時までの間に当日の子どもの様子をボランティアに伝えてください。子どもとボランティアがゆったりとした気持ちで活動が開始できるよう 集合時間をお守りください。

受付終了後は保護者の方は「見まもり」をお願いします。子どもとボランティアの活動を少し離れた場所からご覧ください。子どもが保護者を気にするようでしたら、同じ階の第5会議室をご利用ください。

当日は経験の浅い中・高・大生のボランティア以外に、障がい児支援の経験豊かなボランティアや養護学校教員が中高生をサポートしています。

昼食は弁当持参の方は1階作業室がご利用になれます。せっかくの機会ですので、1階のフードコートやレストラン街を利用してみてはいかがでしょうか。どこで、どんなものを食べるか？については「顔合わせ」のときにボランティアとよく話し合ってください。

活動終了後、ボランティアとその日の様子を話し合ってください。子どもの様子やイベントへの参加の様子、トイレや食事のことなど、普段とどの様に違ったかなどボランティアに伝えてください。

活動は話し合いを含めて午後2時30分に終了の予定です。

わくわくスタジアムin たかつ 顔合わせ会

< 月日、会場 >

・8月5日（日）高津市民館12階第6会議室

< 次 第 >

・スケジュール

9:45 ボランティア受付

10:00 ボランティア研修会
アイスブレイク「助けられ上手ゲーム」
障がいって、何？」
主催者からのお願い

12:00 昼食

12:45 参加者・保護者受付

13:00 写真撮影
参加者・保護者とボランティア顔合わせ
全体顔合わせ・プログラム説明
参加者・保護者とボランティア打ち合わせ「自己紹介・情報交換等」
参加者とボランティアによる「ゲームをして遊ぼう(パラシュート)」
保護者と主催者打ち合わせ(ロビー)

14:30 おしまいの会

ボランティア打ち合わせ 15:00 終了予定

「わくわくスタジアムin たかつ」～みんなで遊ぼう～

<月日、会場>

・8月19日(日) 高津市民館 12階大会議室、第5会議室

<次 第>

8:45 ボランティア受付

9:00 ボランティア打ち合わせ、準備

9:45 参加者・保護者受付(大会議室前)

10:00 はじめの会

10:15 活動開始

科学の部屋コーナー (シャボン玉・空気砲・サンドイッチ電池・小麦粘土・竹とんぼ)

ゲームコーナー (輪投げ・モグラたたき・ボーリング・さかな釣り・ストラックアウト)

エクササイズコーナー (ゴムニクボール・トランポリン・カラートンネル・ボールプール)

12:00 昼食・リラックスタイム(大会議室は飲食できません)

12:50 ミニミニコンサート(リコーダーアンサンブル)

13:10 みんなで歌おう(手話コーラス)

13:30 みんなで踊ろう(レッツダンス)

13:50 リラックスタイム(ごろんごろん)

14:00 おしまいの会

参加者・保護者とボランティアのふりかえりとおわかれの会

14:30 おわかれ

15:00 ボランティア打ち合わせ

15:30 終了予定

取り組みの成果と課題

本企画の実行に関して、事前に「高校生が集まるかなあ？」という思いが常によぎってきました。4月中旬になり、3人の高校生から連絡が入りました。その3人との打合せが、5月。6月と都合7回。様々なアイデア、企画が飛び出してきました。アイデアだけでなく、即、それを実際の企画にいかす行動力は頼もしさひとしおの時間でした。

イベント当日は地域の障害を持つ児童・生徒16名とその家族・保護者が25名、ボランティア61名が集まりました。PTAと教職員を合わせると120名を超え、300人収容の大会議室が狭く感じられるほどでした。

イベントが始まると、事前の心配が吹き飛びました。それは、子どもたちが笑顔にあふれ、楽しく取り組んでくれたことであらわされています。高校生ボランティアの不安や心配も、時間がたつにつれ、子ども達の笑顔や楽しそうな表情により、払拭されたようです。高校生達の感想を見ると、子ども達の笑顔と楽しそうに活動している様子が、自分たちの喜びや自信につながっていく様子を感じ取れます。

「何回も挑戦してくれた」「楽しそうだった」「真剣に遊んでくれた」「リラックスして歌を聴いていた」「お母さんと一緒にできて良かった」「来年も企画したい」「参加して良かった」など、肯定的な感想を寄せてくれました。

参加者の保護者の方々からも「最初緊張していたが、慣れると良い表情になった」「楽しそうに活動してくれた。来年も参加したい」「楽しい企画で、応募して良かった」「是非、今後もこういった機会を持ってほしい」「高校生のボランティアの方への意識付けのためにも保護者ができることがあればお手伝いしたい」などのご意見が寄せられました。今回のイベントは、「高校生に任せたら??？」という様々な不安を払拭する結果となりました。参加してくれた高校生の企画力がすばらしく、PTAや教員が「ちょっと難しいなあ?」「こんなのできないよ!」と内心、感じたことを次々に、実行に移してくれました。そのことは、私たちにとっても、「子供らの余暇支援はちょっと大変!」という思いを、「やればできるんだ!」と変えてくれました。今後の取り組みへの大きな力となってくれたと思います。

課題としては、もっと多くの高校生に参加してもらいたいということです。そのためには、広報活動の充実が図られるべきだと思いました。単にチラシを配るだけでなく、自分たちが様々な地域イベントに参加することにより、参加者として他の方々へ情報を提供していく必要があると感じました。

また、今回は全知Pからの研究助成により、資金的には何とかクリアできましたが、今後の活動には資金的な背景もよく考えていかなければと思いました。このことも、地域のボランティア団体や障害者団体・社会福祉協議会との連携が欠かせないと感じました。

5. 地域防災ボランティア養成講座の実施

「学校・地域・ボランティアによる災害時要援護者支援シミュレーション訓練」

はじめに

平成19年3月の「能登半島地震」や7月の「中越沖地震」では、多くの人々が避難生活を余儀なくされました。テレビ報道等でご承知かと思いますが、避難者の多くは高齢者をはじめとする要援護者（障害のある方や要介護者）です。また、記憶の新しい「中越地震」や「阪神・淡路大震災」でも、要援護者の方々に対する災害時の支援のあり方が大きな課題と指摘されました。

高津養護学校とPTAは本年創立30年を迎えます。本校がある高津区や隣接の宮前区には300名近くの卒業生をはじめ、障害者施設・作業所・高齢者施設等に多くの要援護者の方々がおられます。ご自宅でお一人で過ごされるご高齢の方も多いかと推測されます。

そこで、高津養護学校とPTAではその専門性を活かし、大規模震災等の災害時に本校児童・生徒だけではなく学校周辺地域の障害児・者及び要援護者に対する様々な支援活動を災害ボランティアとの協力・協働によりその可能性を探りたいと考えております。そのためには、地域の皆様との協力関係の強化や協働による地域活動の実践が必須です。日頃からの地域自治会や自主防災組織との連携協力や、高津区・宮前区をはじめとする川崎市行政機関との連絡調整、近隣の障害者や高齢者施設・作業所等との情報交換など取り組むべき課題は少なくありません。

本年度はその活動の緒として以下のような取り組みを想定し、実践してきました。

障害児・者、高齢者等要援護者支援防災シミュレーション訓練の日程と概要

- ・8月27日（火）

「本校職員及び関係障害者施設による災害支援ボランティアシミュレーション訓練」

概要：想定は 年8月下旬朝6時東京湾北部を震源とする大規模地震が発生したとする。（プレハブ棟倒壊、校舎・プール棟等ガラス一部落下、校舎際校庭一部陥没、停電するが復旧、ガス供給停止、電話一部可、携帯不通、メールは可、周辺一般住宅から火災発生、避難者が集まり始める）

- ・教職員は自らとその家族、近隣住民の生命や安全の確保を優先し、その安全を確認した後、可能な手段で学校（または管理職）に連絡後、集合すること。

- ・徒歩またはその他の手段で24時間以内に学校に集合可能な想定人数約20～30名

- ・登校した職員は直ちに校舎の安全を確認する。校舎崩壊等の危険性がある箇所には立入禁止措置をとる。（プール棟ガラス飛散、天井落下進入禁止措置・プールの水は生活水として使用可能）

- ・対策本部設置（校長室） 本部長は登校した管理職または総括教諭または学年長、その他係は本部長指名、校舎内が危険な場合は校庭にテント設置

<本部の具体的対応>

- ・本部長は対策本部会議を招集、出席は本部要員及び各係責任者
- ・各係や避難者、ラジオ等の情報を収集し、各係に報告、状況判断、指示をおこなう。
- ・各係は現時点での情報を本部長に報告、本部長の判断を仰ぐ。 口頭でなく掲示対応する。

- ・副本部長は被害概要、職員出勤状況など第1報を県教委へ、また、周辺からの避難者

の状況を区役所地域振興班へ。

・ 渉外情報班は、市対策本部や近隣消防署・公共交通機関の運行状況・道路状況等の情報を電話、ラジオ放送、防災行政無線等から収集、本部長に報告する。

・ 通報連絡班は通報用掲示板を設置。本部での収集情報や連絡指示事項を記載掲示。

・ 重要品搬出班は持ち出し品確認後安全な場所に移動、確保。情報提供の際の飛散に配慮し管理する。

・ 避難所設営班は設営場所確認、確保・設営備品準備・避難民受入準備・ボランティア対応指示・受入開始

・ 物品補給班は備蓄食糧確認、飲料水確保、防災備品準備をおこなう。また、避難所に対応する準備をおこなう。

・ 安否確認、保護者連絡係（ボランティア要請）は保護者向けメール発信、緊急用に使える緑電話の場所確認、メール返信のない家庭について電話で確認、ボランティアと近隣の音信不通者に対し安否確認

安全点検・防護消火係（ボラ要請）はボランティアとと飛散ガラス除去、窓ガラスの補修作業、陥没箇所確認補修、校舎周辺を含め安全確認、危険箇所立ち入り禁止措置、本部報告後、掲示

・ 10月13日、20日、27日（土）、11月4日（日）

：災害支援ボランティア養成講座（4回）の概要

第1回：10月13日（土）13:00より高津市民館第4会議室

・ 災害とボランティア（80分）

過去の震災からの教訓

ボランティアの活躍と役割

ボランティアとは

ボランティアとして

・ 災害と障害者（要援護者）（80分）

過去の事例から

要援護者救援の必要性

要援護者とは（障害の特性と対応）

第2回：10月20日（土）13:00より高津市民館第4会議室

・ 実際の対応と訓練（90分）

障害者への支援とは

障害への理解と疑似体験

・ 実際の対応と訓練（80分）

想定される状態像

ボランティアセンターとボランティア

第3回：10月27日(土)13:00より高津養護学校皮工室

- ・実際の対応と訓練（110分）

集合から活動開始まで

図上訓練

- ・ふりかえりとまとめ（50分）

高津養護学校の防災体制

今後の流れ

第4回：災害時障害児・者支援シミュレーション訓練 11月4日(日)9:00より

講師：川崎災害ボランティアネットワーク代表 植山 利昭氏

：H I M A J I N代表 蝦名さゆりさん

- ・11月4日(日)災害時障害児・者支援シミュレーション訓練

訓練の流れ

8:45 ボランティア集合受付 ボランティアに説明

参加者(一般、保護者等)受付(児童生徒リラックスルーム誘導)

9:00 開会

9:30 講演会

「中越地震に学ぶ」桑原 昭氏(新潟県北魚沼郡川口町立川口小学校元校長)

10:20 休憩・移動(リラックスルーム閉鎖)

10:30 シミュレーション訓練開始

避難所設営訓練

体育館入り口でプラ版、ウレタンマット、毛布を配布

掲示板設置(要援護者や支援の必要な方の聞き取り、必要な方は家族とともに

高プレイ室に誘導)

一般避難者に足湯ボラ、搬送訓練、炊き出し訓練参加を呼びかける

11:15 炊き出し訓練

足湯ボランティア訓練

避難所運営会議招集

12:00 設営訓練報告

12:15 講評 桑原氏

植山氏 川崎ボランティアネットワーク代表

12:30 片付け、一般参加者解散

13:00 片付け終了

職員、ボラ打合せ

参加者の動き

受付（受付票に記入後、ガムテープに受付 ナマエ(カタカナデ) 記入し、貼って下さい）
講演会場へ（リラックスルーム利用者は小プレイルームです）
講演会終了後、体育館入り口に移動し避難所設営準備開始します（グッズ受け取り）
避難所設営（係の支援を受けながら）
支援が必要な方への聴き取りと申し出（必要な方は避難所2, 3へ移動）
たきだし（広報掲示板に注意） ゴミは持ち帰りをお願いします
足湯体験、搬送訓練体験（第2・3避難所で可能な方も参加して下さい）
感想シート記入記入して下さい（本部の箱に入れて下さい）
講評を聞きます（体育館で行います。第2・3避難所の方でかなう中田は参加して下さい）
終了です。片付けに参加して下さい。

ボランティアの動き

受付（受付票に記入後、ガムテープに受付 ナマエ(カタカナデ) 記入し、貼って下さい）
講演会場へ（体育館の準備に参加していただく場合もあります）
講演会終了後、ボラ本部に移動し指示を受けて下さい。
指示に従い、各係のところに移動して下さい。
各係の指示に従い活動を始めます。
活動が終了したらボラ本部に戻って下さい。
感想シートに記入して下さい。
講評を聞きます。
片付けに参加して下さい。
教職員との反省会に参加して下さい。
解散です。ありがとうございました。

6. まとめと課題

参加者総数 135名（地域の方々75名、本校児童生徒とその家族11組31名、ボランティア17名、本校教職員12名）

参加者へのアンケート

1. 今日の日程はいかがでしたか。（11月の日曜日に実施したことや時間設定など）

- ・連休なので初日（11/3）がよかった。
- ・開始時間が早いかと思いましたが、設営もろもろ考えるとこのくらいかと思いました。
- ・日曜の午前中なので参加できました。近くで行われたので参加できました。
- ・休みの日ですと家族で参加できたのでよかったです。
- ・日程はよいと思います。
- ・ちょうどよいと思います。
- ・OKだと思います。しかし、真夏・真冬の体験もあった方がよいのではないかととも思います。
- ・時期的には暑くもなく寒くもなくの頃なので、実際には寒い冬の時にいった方がよいのではないか。
- ・いろいろな行事があり、すらしてもらいたい。
- ・良いと思いますが、私の場合重なりました。
- ・良いと思う。
- ・良いと思います。
- ・やはり、主人も一緒に参加できた事は助かりました。
- ・本日は天候にも恵まれよい訓練ができました。
- ・休日でないといられない人が多いので良かったと思います。
- ・いいと思います。
- ・昼間ではなく夜間の暗い時が必要。
- ・良い。これからも続けていくのなら、暑い時・寒い時いろいろな時期に設定してみてもいいように思います。
- ・日曜日でボランティアの方や父親も参加しやすくよかったです。暖かい時間帯で時間設定もちょうどいいです。
- ・地震はいつおきるか分からないけれど、時期はいいと思います。私自身は土曜日でも日曜日でもいいのですが。
- ・時間、曜日、設定 OK

2. 講演内容はいかがでしたか。

- ・大変具体的でわかりやすかった。時間が足りなかったとは思いますが、あまり長いのも飽きるとおもいます。
- ・実体験を詳しく話していただき、地震になった際実際思っているより何もできないということがわかり、日々の心構えが必要だと思いました。
- ・時間が少なくて先生も大変だったと思います。「本題」の部分が少し足りなかったでしょうか。
- ・生の声が聞けたのでとてもよかったです。報道されていない中学生や若い人たちの姿・地域

の力が必要だということを実感しました。

- ・実際に経験した方のお話だったので、必要なことなどを聞いてよかった。
- ・とても参考になった。
- ・現状がよく伝わってきた。ありがとうございました。
- ・直接地震にかかわられた桑原氏の話だったので、聞いていて泣けてきたところも何度かありました。自分に置き換えて考えてみると恐ろしくなりました。しかし、私にふりかかる事を頭に入れて聞いていました。
- ・現実地震にあっただう経験(体験)したかの話は参考になることが多い。
- ・桑原先生の生々しい実体験の話に緊張感をおぼえました。マニュアルの位置づけに考えさせられます。
- ・熱弁の講演でした。
- ・とてもためになりました。実際に体験された事をお話してくれたことは臨場感があり、よく伝わってきました。(もっと時間をかけてお聞きしたかったです。) こういうお話をなるべく多くの方が聞いて欲しいと思いました。
- ・よい参考になりました。
- ・生々しい実際の話が中心で、大変勉強になりました。特に「共生」の大切さを学ばせていただきました。
- ・実際に体験なさった方のお話はやはり伝わり方が違いました。本当にありがとうございました。先生のお人柄にも惹かれ、ファンになりました。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。
- ・実際にあった事の講演で、内容は大変よいです。
- ・実際に体験された方のお話だったので、一言も聞き漏らすまいと真剣に聞かせていただきました。大変参考になり参加してよかったです。(講演の話ビデオにとって参加されていない方々に見せてあげたいと思うくらいの内容でした。)
- ・実際の生の声で伝わってきて感動しました。
- ・実感が感じられた。マイクを使用してほしかった。
実際に体験された方のお話だったのでとても興味深く聞きました。教訓としての学ぶべきことがたくさんあり、参考になりました。
- ・実際の体験に即したお話、子供たちや住民のお話など、メディアでは知りえなかった貴重なお話をありがとうございました。
- ・先生の講演はとてもよかったと思いますが、時間が足りずもっとお話が聞けたらと思いました。また、お話が聞ける機会があればと思います。
- ・生活について詳細に実体験を聞きたかった。

3. 訓練内容はいかがでしたか。

- ・指示が少ないので対応に困った。
- ・避難場所の設営等、実際に想定しての内容でよかった。
- ・避難所生活を少し体験できて有意義でした。実際は大変だろうなあと。
- ・男性のかたまりの集団はすぐにプレートをたてたりしていましたが、終わったらまだできていないところに一部まわってもらえると助かる。女性でも見本があればさっとできたと思います。

- ・体育館でのシミュレーション訓練は、なかなかできる訓練ではなかったので、よかったです。実際に起こった時は、もっとパニックになるのかと思いました。
- ・実践的でとてもよかったです。
- ・このような練習は今まで経験したことがないのでとても良かったです。落ち着いて考え、行動することができました。
- ・今回は主人が回りの柵を作り、私のご飯の準備等をやったので、スムーズにできたのですが、私一人で子供たちと準備するとなると不安です。柵があるだけでずいぶん良いですね。
- ・今まで訓練に参加したことがなかったので(職場で定期的に行うのには参加してはいるのですが)、その後の体験ができて非常に参考になった。
- ・参加することによって見えてくる部分があり、良かったと思っています。
- ・初めてでしたが、良いと思う。
- ・自閉の子供が養護学校であればまだまわりの理解も得られると思うが、普通学校に避難した場合、どうなるのか考えさせられた。
- ・障害をもった子供を連れての場所確保は難しいです。(実際には本人もパニックになるだろうし)
- ・大変よいです。
- ・初めてのことなので、こんな感じかなと思いました。足湯がとても気持ちよく癒されました。
- ・初めての体験です。
- ・最初としては良かった。
- ・良い。パーテーションの取り付け方がよく分からなかった。(今日の訓練で理解できました。)
- ・体育館での設営の訓練のみでしたが、本部や更衣室ができる様子、マイクでのお知らせなど、具体的に避難所のイメージができてよかったです。
- ・やはり、子供が状況についていけずに泣いていることもありました。現実だったらやはり近くの学校にいるのは無理だと感じました。
- ・ご近所でもっと協力できるよう一考必要。犬・猫も参加させてもらいたい。

4. 養護学校の取り組みとして、このような訓練はいかがでしたか。 .

- ・学校に地域の人がおいで下さることはよいことだし、地域の学校として理解してもらうにはよい機会と考える。
- ・地域の方々と協力して良い訓練だったと思います。今後も引き続き行ってもらいたい。
- ・養護学校までは遠いので実際に来られないのが残念です。地域の小学校に何らかのアナウンスがあればいいなと思いました。
- ・とても大切なことだと思いました。本当は息子も参加させたかったのですが残念です。母といる時、先生といる時ばかりではないと思いますから。足湯もとてもよかったです。
- ・障害児むの子がいるので養護学校でこのような訓練をしていただくと、他の方へあまり気にする事がないのでよかったです。今日の訓練でもなかなかじっとすることができなかったので、実際になった時は近くの小学校へ行くのは難しいのかなと思いました。
- ・何となくですが、実際の避難生活を想像できてとてもよいと思います。
- ・良かったと思いますが、実際にはもっと生徒が多いのでよくわかりません。
- ・とても大切なことだと思います。もっと多くの高津の児童・生徒の家族の参加があっても良

いのかな?と思いますが、1回目だから仕方ないのかなとも思います。

- ・ぜひとも今後続けていただきたい。
- ・先進的な活動に敬意を表します。
- ・特に養護学校の取り組みが生きたと感じました。
- ・とても素晴らしいことだと思いました。
- ・養護学校の訓練では子供本人も安心してできた感じですが、実際に自信があった場合の避難は、地元の学校になるのか??と思うと不安で不安でたまりません。
- ・初めての体験です。このような訓練はこれからも何回かやれるよう、お願いします。
- ・初めてのことで、よく分からないですが、継続していくことによってより良い取り組みができてくるのかなと思います。
- ・学校の中だけの訓練ではなく、地域の人たちと一緒にできてよかったと思います。
- ・次回はダンボール(古い物)の活用もして下さい。
- ・初めての経験でよかったです。イメージが少しつかめました。
- ・息子は多動で奇声も大きく、住宅が倒壊するとうして養護学校にお世話になると感じます。地域の方々やボランティアさんにもたくさん参加していただき大変感謝しています。行政より早く学校で実施していただき、ありがとうございます。
- ・足湯に入れたのでとても気持ちよかったです。このような訓練はまた機会があったら企画して欲しいと思います。
- ・養護学校らしく障害者(児)に対し、もう一步踏み込んだ訓練が必要。

終わりに

アンケートから読み取れるように、初めての訓練ながら、比較的好意的に受け取られました。以前から、学校と児童生徒による防災訓練は地震や火災など様々な災害を想定して行われてきましたが、今回のように地域住民とボランティアによる訓練は初めての経験です。多くの方々に参加いただき、ありがとうございました。

学校としては、土日のようなお休みの日にこのような訓練を実施することは、様々な困難があるかと思いますが、地域の方やボランティア、また、家族として参加するには、やはり、休みの日がよいと思われま。今回は、比較的、天候にも恵まれ、「訓練日より」でしたが、実際の災害はこのよう日ばかりではありません。夏の暑い日や、冬の寒い日、また、夜間に実施したらどうでしたでしょうか。様々な状況を想定しながら訓練を重ねていく必要があると感じました。

災害時に障害を持つ児童・生徒の状況は「阪神淡路震災」時にみられたように、混乱が想定されます。そのなかで、学校の存在は力強く感じます。特に、障害児が学ぶ特別支援学校・養護学校は私たち保護者にとっても「頼れる存在」です。行政からの避難所指定は遅れているようですが、その指定を待つまでもなく、学校と保護者、地域が協力して「防災対策」が進むよう。期待してやみません。

神奈川県立高津養護学校PTA
〒213-0035 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘16
電話：044-865-0477